

【バイオマス燃料調達契約の解説】

バイオマス発電事業の契約実務と法的リスクの留意点

【講師】

ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業） パートナー 弁護士 江口 直明

（敬称略）

【講義概要】

バイオマス発電は昼夜を問わず、また天候を問わず発電できるので安定した電源になりうる。しかし、太陽光や風力と異なり、燃料は自前で調達してこななければならない。バイオマス発電事業の成功のカギはいかに安定した価格で確実にバイオマス由来の燃料を確保できるかにある。2016年4月からの電力小売完全自由化を踏まえ、自前電源としてバイオマス発電の重要性が高まっている。またCOP21を受けてバイオマス混焼の機運が高まっている。

本講義では、再生可能エネルギーの全量買取制度の最新の動き、及び資源エネルギー庁のモデル売電契約を解説した後に、バイオマス燃料調達契約について重点的に解説する。特に海外のバイオマス燃料の生産者からバイオマス燃料を長期安定的に購入する調達契約を解説する。また、具体的にプロジェクトを遂行するためには、土地賃貸借契約、売電契約、建設契約（EPC）、運営契約（O&M）、性能保証、保険契約、プロジェクトファイナンスの融資契約・担保契約などさまざまな契約書を作成・交渉しプロジェクトを組成していく必要がある。また、電力会社との工事負担金の交渉も不可欠である。本講義では、各契約作成の注意点を検討する。さらに資金調達方法としてプロジェクト・ファイナンスを考える場合の視点も織り込んでいく。

【重点講義項目】

1. 全量買取法をめぐる最近の動き～ 改正再エネ法成立 太陽光から風力・バイオマスへ
2. 電力小売自由化と自前電源の重要性
3. 火力発電に係る判断基準WGの動き
4. 環境省と経産省の対立、バイオマス混焼比率のアップ
5. 特定契約・接続契約モデル契約書の内容
6. バイオマス供給契約
 - (a) 契約期間
 - (b) 契約価格
 - (c) 品質
 - (d) 供給義務と供給できない場合の損害賠償、スポンサーサポート
 - (e) 解約権の制限
7. 各種契約
 - (a) 土地賃貸借契約
 - (b) 建設契約（EPC）
 - (c) 運営契約（O&M）
 - (d) 性能保証
 - (e) 保険契約
8. 再生可能エネルギーのプロジェクト・ファイナンス
9. スポンサーサポート契約

講演スタイル

プロジェクトを使用します

*当セミナーの録音、転送、撮影等はお断りしております。また、法律事務所ご所属の方は、お申込みご遠慮願います。

講師略歴

ベーカー&マッケンジー法律事務所の銀行・金融部門のリーダー、取扱太陽光案件：100MW、80MW、40MW、30MW等の大規模案件、複数の2MW以下案件のバンドリング、TK-GKスキーム、屋根貸し案件、取扱風力案件：北海道幌延、北海道さらきとまない、北九州響灘、青森県六ヶ所村、愛媛県三崎町、秋田県八竜、石川県輪島、その他取扱環境エネルギープロジェクトファイナンス及びPFI案件：バイオエタノール・ジャパン関西（株）、吾妻木質バイオマス発電（13MW）、向浜バイオマス発電（20MW）、黒都市下水道バイオマスエネルギー利用施設整備運営PFI、福岡クリーンエナジー廃棄物処理及び発電、福山RDF発電、東京臨海リサイクル発電、横浜市消化ガス発電PFI、埼玉県彩の国廃棄物、堺市資源循環型廃棄物処理施設PFI、その他廃棄物DBO案件多数、海外売主との長期バイオマス調達契約のアドバイス、自家所有水力発電所や火力発電所の会社分割によるファンドへの売却と売電契約。1986年一橋大学法学部卒業、1988年東京弁護士会登録、1992年ロンドン大学（UCL）法学修士（国際ビジネス法）取得、1993年ベーカー&マッケンジーロンドン事務所勤務 内閣府PFI推進委員会専門委員（2010年～）国土交通省空港運営のあり方に関する検討会委員（2011年）【主な論文】「日本におけるプロジェクト・ファイナンスの立法課題」（ジュリスト1238号）、「アジアにおけるプロジェクトファイナンス」（OKAJI）他【ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業）】日本人弁護士110人、外国法事務弁護士19人、外国で資格を有する弁護士16人、その他税理士、弁理士等、専門家総計176人の国際法律事務所。

